

第2回日本 DOHaD 研究会年会
「DOHaD 研究の発展に向けて：病態発症のメカニズム理解、そしてその先へ」
当日プログラム

平成 25 年 5 月 14 日 ver.

第2回年会長 独立行政法人国立健康・栄養研究所

瀧本秀美

初日：6月7日（金）

- | | | |
|--------------------|-------------|--|
| 9 時～9 時 5 0 分 | 受付開始 | |
| 9 時 5 0 分～1 0 時 | 開会あいさつ | 栄養研理事長、研究会長：瀧本 |
| 1 0 時～1 0 時半 | 基調講演 | DOHaD を巡る最近の話題
福岡代表幹事（座長：瀧本） |
| 1 0 時半～1 1 時半 | 特別講演 I | 糖尿病発症と DOHaD
国立国際医療センター理事長 春日雅人（座長：瀧本） |
| 1 1 時半～1 2 時 | 教育講演 I | 未熟児医療と DOHaD
昭和大学小児科教授
板橋家頭夫（座長：杉山隆） |
| 1 2 時～1 3 時 | 昼休み（幹事会） | |
| 1 3 時～1 5 時半 | シンポジウム 1 | DOHaD のメカニズムの解明～最近の知見～
（座長：伊東宏晃・秦健一郎）
1 古瀬民生・若菜茂晴（理化学研究所）マウス胎生期低栄養モデルからの知見
2 小川佳宏（東京医科歯科大）肝臓におけるエピゲノム変化と糖脂質代謝変化
3 酒井寿郎（東京大学）肥満・糖尿病発症におけるエピジェネティクスの役割
4 望月和樹（山梨大学）栄養による遺伝子のエピジェネティクス変化
5 後藤貴文（九州大学）ウシの研究からみたDOHaDの理解とその応用の可能性 |
| 1 5 時半～1 5 時 4 5 分 | 休憩 | |
| 1 5 時 4 5 分～ | シンポジウム 2 | 胎生期環境と発達障害（座長：武井教使・久保田健夫）
1 武井教使（浜松医大）：オーバービュー ～観察研究からみた胎生期環境と精神発達～
2 松崎秀夫（福井大学）：発達障害発症基盤としての胎生期脂質代謝異常
3 黒田洋一郎、木村-黒田純子（環境脳神経科学情報センター、東京都医学研）：
発達障害児増加の原因としての胎児・乳児脳内化学物質環境
～エピジェネティックな発症メカニズム

（追加発言） 厚労省障害保健福祉部 田中剛課長補佐 （座長：秦健一郎）
第8回国際 DOHaD 学会参加の呼びかけ 福岡代表幹事 |
| 1 8 時～ | 懇親会（戸山庁舎食堂） | |

2日目:6月8日(土)

- 8時半～ 受付開始(ポスター掲示)
- 9時～9時半 会長講演 妊娠期・子育て期女性の栄養摂取制限の課題 瀧本
(座長:久保田健夫)
- 9時半～10時 教育講演Ⅱ 厚生労働省における発達障害者支援の施策
厚生労働省障害保健福祉部 専門官
(座長:土屋賢治)
- 10時～10時45分 教育講演Ⅲ 低出生体重の影響に関する経済学的分析
大阪大学経済学部教 大竹文雄
(座長:伊東宏晃)
- 10時55分～11時40分 教育講演Ⅳ DOHaDを視点に入れた地域健康づくり
女子栄養大学副学長 香川靖雄
(座長:佐田文宏)
- 11時40分～12時30分(昼休み)
- 12時30分～14時 ポスター発表 (座長:野原恵子、望月和樹、加藤則子、鈴木啓二)
- 14時～16時
シンポジウム3「疫学・臨床医学の立場から見たDOHaD」(座長:宇田川潤・佐田文宏)
1 杉山 隆(東北大学)「過栄養と胎児発育:児発育に影響を与えるのは糖質代謝だけか?」
2 佐田文宏(国立保健医療科学院)「出生時～幼小児期の体格と成人期のアウトカム」
3 宮本恵宏(国立循環器病研究センター)「DOHaD研究から内科医ができること」
4 西條泰明(旭川医科大学)「DOHaDと炎症としての動脈硬化」
- 16時～16時半 総会
優秀演題(口演)と優秀ポスター賞の発表・表彰状授与
閉会式